

復興への歩み

浪江町長 馬場 有

暑さが日ごとに加わり、夏を感じる時期を迎えました。この時期になると、請戸の海水浴場で涼をとっていたのを思い出します。

浪江町の5月31日現在における居住人口等を発表いたしました。165世帯234人。前月と比べると25世帯41人の増となつていますが、震災前に2万人近くの住民が生活していたことを考えると、少し寂しく思っています。しかし、いま大切なことは、この数字ではなく、「浪江に戻って生活したい」、「浪江をどうにか元どおりにしたい」という思いから町内に戻り、住み慣れたふるさとの良さを改めて実感し、喜

んでいる方々がいらつしゃることではないかと思います。

町では、住民の皆さんの安心を保持するための取組みとして、救急医療体制の確立、防犯体制の整備などを進めてまいりました。

しかし、町内で生活をすると、生鮮品を扱っている店

がない、夜の町が暗いなど、まだまだ不便さを感じるところがあるかと思いますが、できることから着実に取り組んでいきたいと考えています。

震災前の状況には及びませんが、最近、人の流れを感じることができ、子供連れのご家族が浪江を訪れているのを目にすることが多くなりました。

この先、町に住む方が徐々に増えてくると思います。町は、多くの町民を受け入れることができるよう、できるだけ早く商業施設の充実や防犯灯の設置など、住環境の整備を進めていきます。

また、平成30年度には認定こども園、新しい小・中学校が始まりますので、子供が安心して生活することができるよう放射線のモニタリングを徹底していきたいと考えています。

今年、震災後初めて、浪江で十日市を開催します。皆さんにお会いできることを大変楽しみにしていますので、広域的に避難している町民の皆さんには、是非、ふるさとの浪江へ集まっていたきたい。絆をつなぐ場、交流の場にしたいと思っています。

これから暑い日が続きます。健康にご留意いただき、くれぐれもご自愛ください。

